

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成 26 年度 高松市地球温暖化対策実行計画推進協議会
開 催 日 時	平成 26 年 11 月 4 日（火） 13 時 30 分 ～ 15 時 30 分
開 催 場 所	高松市役所 11 階 114 会議室
議 題	(1) 2011（平成 23）年度温室効果ガス排出量等について (2) その他
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上 記 理 由	
出席委員	16 人 嘉門会長、多田副会長、秋山委員、足立委員（代理：横山）、井上委員、片山委員、勝浦委員、川原委員、熊野委員、合田委員、白井委員、高橋委員、中島委員、平木委員、古川委員、村井委員
欠席委員	2 人
傍 聴 者	0 人 （傍聴席：10 席）
担 当 課 お よ び 連 絡 先	環境総務課地球温暖化対策室 (TEL 0 8 7 - 8 3 9 - 2 3 9 4)

審議経過および審議結果
協議会を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。 次のとおり、協議会を開催した。 (1) 2011（平成 23）年度温室効果ガス排出量等について （事務局より説明） 以後審議 （会 長） 「1 2011（平成 23）年度温室効果ガス排出量について」のところで、民生部門では電力の割合が大きいと、電力の排出係数が変われば、温室効果ガスの排出量も大きく変わってくる。様々な活動を通じて CO2 削減を積み重ねても、排出係数が大きく上がってしまうと、せっかくの積み上げが台無しになってしまい、無力感を感じてしまう。 そうならないように、工夫をした公表の仕方もあるのではないだろうか。そういったことも含め、CO2 排出量削減の努力、今後の見通し、表現の仕方等について、質問・意見をいただければと思うが、いかがだろうか。 （委 員） 16 ページの「間伐などによる健全な森林づくりの促進」について、2 点質問させてもらおう。1 点目は、5 団体が協働の森づくり推進事業を実施したとなっているが、この 5 団体の名前を HP で公表したほうが企業の CSR 活動に拍車がかかるのではないかと。 2 点目に「重要な松林を特定」とあるが、重要な松林が高松のどのあたりにあるのか。 （事務局）

審議経過および審議結果

5 団体については、団体名を公表することは特に支障はない。

それから、重要な松林というのは国の定めている松くい虫の空中散布をする場所のことであり、今現在は国分寺の鷲ノ山地区の 1 ヶ所でしかやっていない。

(会 長)

「農地・森林の保全」で森づくりによる緑の CO2 削減量は推定できないのか。

15 ページに緑のカーテンの CO2 削減効果が推計 3, 224 kg-CO2 とあるが、これら削減量は、市全体の排出量に算入されていない。増える方はカウントに入っているが、年間の削減努力した値が全く入っていないのはつり合いが取れない。恐らくどこの自治体も入っていないと思うが、高松市は独自でそういうことをやってはいないのか。

(事務局)

緑のカーテンについて、カーテンを作り日当たりを防ぐことで、冷房の使用量の削減につながり、それが市全体の電気代の削減につながるということで推計している。森林については、推計がなかなか難しいところがあり、検討してみるが困難である。

(委 員)

12 ページの「電気自動車の普及」について、充電場所の数や位置の情報が調べるサイトによってバラバラである。どれを信用したらよいか、わからない。よく利用する我々でもそうなので、一般の人は特にそういうところが気になるのではないか。

6 ページの「再生可能エネルギーの利用促進」について、電力会社の固定価格買取制度が、10kW 未満のもの以外は受付を保留状態にしているが、そういった情報や補足説明があれば一般の方が見てもわかりやすのではないか。

また、達成目標率がすでに 200%を超えているものについて、今年度中に目標を達成しそうであるにも関わらず、目標値の修正は行わないのか。

(事務局)

電気自動車の急速充電器の設置場所については、県や市の HP に掲載しているので、そちらも参考にしていきたい。

住宅用太陽光発電の補助金については、10kW 未満のもののみを対象にしているので、直接は関係ないが、なおそういった情報を別途記載するよう検討したい。

(会 長)

郊外のレストランやショッピングセンターなどであれば、所要時間が 30 分～1 時間でちょうど急速充電器の充電時間と同じくらいなので、そこに設置してもらえると利用率も増えるのではないか。民間に設置してほしいと依頼しても、なかなか難しいところがあるので、行政のほうでもっと PR をしてほしい。

6 ページの再生可能エネルギーの達成率が高いものについて、目標を見直さないのかという指摘があったが、高松市の実行計画は 32 年度を目標設定としているので、そのうち飽和してしまうかもしれないが、今の段階ではこのままで、新しい目標値への変更は、今後の状況をみてということになるだろう。

(委 員)

民生家庭部門の中では、電力が CO2 の大部分を占めている。我が家でも 2 年前太陽光パネルを設置した結果、半分くらいは自給できた。

また、暖房用として、薪ストーブを購入しようと考えているが、費用が相当額かかり、

審議経過および審議結果

なかなか大変である。そういう面でも、行政として助成してほしい。

(事務局)

市では、現在太陽光・太陽熱・充給電設備・蓄電池などの補助を行っている。これらは他都市の状況も参考に行っているものである。先ほどの薪ストーブについては、他都市については助成の事例がなかったが、今後検討していきたい。

(会 長)

バイオマス発電は再生可能エネルギーの観点からみると、太陽光発電より発電容量が大きい。高松市コンパクトエコシティの拠点外の緑豊かなところで、バイオマスの導入に対する特別な支援システムを検討してもらおうと、多核連携型コンパクトエコシティ構想の拠点外に対する環境整備として、非常に貢献できる可能性が高い。

(事務局)

バイオマスについては、地域によっては将来性があるところもあるが、高松市内では、供給の問題がある。

(会 長)

バイオマス発電の整備については、都市地域ではやめたほうがよい。しかし、高松市もコンパクトエコと言っているが、拠点外が市町村合併などで広い。そもそも、効率を高めようとして街中だけ整備し、郊外は切り捨てるということをしては、街全体の品格を落とすので、やはり郊外を田園豊かな都市を支える緑のエリアという形で、きちんと整備するということを地域の方に約束することが、コンパクトエコを推進するうえでの必須事項である。整備を含め居住環境を守ると提案していくのは、戦略的にも悪くないのではないかな。ぜひ、市の各課で連携して、進めてもらいたい。

(委 員)

17 ページの「廃食油収集ステーションの設置」について、6,192ℓの廃食油を収集したとあるが、それを収集してどうしたのか。また、その下を見ると、レジ袋の CO2 削減効果が約 440 t・CO2 と書かれているが、枚数などが出てくるのではないかな。そういった数値が知りたい。

(事務局)

廃食油は、徳島の工場に持っていき、再活用されている。市内では活用できていない。レジ袋については、7,328 千枚削減されており、環境省で規定されていたレジ袋の CO2 削減量である一袋 60 g をかけて数値を出している。

(委 員)

廃食油については、処理するところやどれくらいという定量まで示したりした方がよいのではないかな。

(事務局)

確認して、可能であれば、そういった措置をさせていただきたい。

(委 員)

8 ページの「ごみのリサイクル率」について、「紙類のリサイクルの推進を図るための雑紙を回収するモデル事業を実施する」ということだが、どのようなことなのか。

(事務局)

雑紙回収モデル事業とは、今年度 8 月～10 月にかけて、市内計 433 世帯に協力しても

審議経過および審議結果

らい紙・布類を回収した。今、燃えるごみに入っている紙類、資源ごみになりうる紙類を資源物として出してほしいという依頼をかけ、それがどのくらい集まるかというモデル事業を実施した。結果については、今分析しているところである。

(委 員)

個人情報の関係でシュレッダーのごみは事業系が多いと思うが、そういうものはリサイクルできないのか。

(事務局)

シュレッダーのゴミについては、回収時に袋が破けてしまい、工場のほうに持っていくと風で飛んでいくので、出来たらやめてほしいというのが問屋の要望である。高松市のある業者はシュレッダーをする車を持っているため、その場でシュレッダーにかけて持ち帰り、再生紙にしていると聞いている。ただ、紙を再生するために、繊維を切ってしまうと役に立たないので、いくらでもは再生しにくい。もう少し技術が進歩するのを待つしかない。

(会 長)

最初にもどるが、目標年度が 2020 年（平成 32 年）だが、これは達成不可能になると思う。努力はしているが、排出係数の関係で達成できなかったというように、市民に対して努力が無駄であったと受け取られないよう表現の工夫をしておく必要があるのではないか。そういった工夫を市として今後ぜひ検討してもらいたい。電力使用量がどう変化したかということ強調して、CO2 は、報告書 2 ページに基準年の電力排出係数を用いた数値がでていますが、これをもう少し強調するなどしておかないと、CO2 排出量はすべて増えていると受け止められる。排出係数で CO2 排出量が決まるということを、本当の意味でどう上手く理解していただくのかということを今後一年間の課題としていただきたい。

(委 員)

市民にお知らせをするときは、(排出) 係数と言っても分からない人が多いと思う。皆が省エネに努めて、電力使用量は減ってきているのだけれども、電気を作るのには原発が止まっているので、同じように使っても前よりも CO2 はでている状況だというように、少しくだいた言い方で言ったほうがよい。

(委 員)

現在、再生可能エネルギーの発電量は、高松市でどれくらいの割合なのか。

(事務局)

四国電力の発表になるが、水力を除けると 2% くらいである。

(委 員)

ということは、再生可能エネルギーを増やすのが、一番いいのではないだろうか。

(会 長)

再生可能エネルギーで原子力の発電分を賄うという方もいるが、そう簡単にはいかない。原子力エネルギーは、最近なら大体 1 基が 100 万 kW である。それを太陽光で全部カバーしようと思うと、東京の山手線の全エリアを太陽光パネルでカバーしなければならない。再生可能エネルギーをどこまで、我々が使っていけるか。また、行政としてどこまで支援していけるか。バイオマスも含め、支援していかなければならない。

審議経過および審議結果

(委 員)

17 ページの「循環型社会の構築」について、これは使ったものを回収するという方法もあるし、逆に使わず、出さないという方法もあると思う。ゴミの削減や資源化の促進という部分でいうと、そもそも出さないということが一番大きい。そういったものも、上手くこの取組の中に反映できないか。

(事務局)

ゴミの削減の中で遅れているのが、事業系ゴミの排出量の削減である。ただ、企業の懐の中に手を突っ込んでいくのはなかなか難しいところである。昨年度あたりから大手スーパーの店頭で回収したり、最近になってようやく業者との話し合いも始まったり、すぐにはいかないが、そういう形で今後研究していきたい。

(会 長)

7 ページの「次世代自動車の導入率」について、今年トヨタが燃料電池車を売り出すということだが、水素ステーションの導入については、高松市のほうでは何か前向きな取組はしているのか。

(事務局)

現段階では考えていない。燃料電池車を普及するには、水素ステーションの普及が一番ネックになると思うが、ガソリンスタンドの数倍の費用がかかり、また、どこから持ってくるのかという問題もある。今後の国からの情報等を待ち、検討したい。

(会 長)

6 ページの「進行管理指標における 2013 年度実績等について」とあるが、これは一般の人が見てもわかるのだろうか。「進行管理指標値」というのがあるが、これは「実績」ということではないか。

(事務局)

確かに、「進行管理指標値」では分かりにくいので、「実績値」に修正したい。

(委 員)

民生家庭部門からの二酸化炭素の排出量も多いので、一般市民の方々、家庭の方の努力が大きいものになっていくと思う。家庭の中で自分たちで身近にできることはやっているが、さらにもう少し努力しなければならない部分などを具体的に示してもらえればありがたい。

(委 員)

小学校の牛乳瓶等のリユースの取組について記載がないのだが、こういうものは排出量に算入されないのか。

(事務局)

本資料は市役所の取組や高松市の CO2 排出量を公表するときの報告書である。市民の方に呼びかけるのは別途広報等を使って具体的な周知啓発を行っていきたい。

リユースに関しては、排出量に算入することは困難だが、そういう取組があるのであれば、取組として掲載するよう検討したい。

(会 長)

本日の会議はこれをもって終了する。

以 上